

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700426
法人名	医療法人社団 眞友会
事業所名	グループホーム「けやき」
所在地	宮城県黒川郡大和町吉田字新要害10番地
自己評価作成日	令和 3年 2月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	令和 3年 3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大にて、ご家族の面会を制限させていただいたり、行政の通知に沿って運営推進会議の開催を中止したり、と普段行っていた活動が水際対策優先となっているために配慮させていただいている現状となっています。また、職員の新型コロナウイルス感染症対策として月1回～2回の訓練を行っております。ご入居者の皆様には、感染対策をしながら近隣へのドライブやご家族と電話やZoomを使用頂いた面会を行っています。現在は、屋内中心にはなっていますが、ご入居者の想いに寄り添い、ご本人の「やりたいこと」「できること」を継続して行える環境を整えられるように、事業所の方針を職員全員で作成し、ご入居者との関係を密に構築するよう努めています。医療面においては、併設している診療所・介護老人保健施設との連携を図ることで、必要な医療が受けやすい環境が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大和町中心部の少し南に位置し、近くに役場やまほろばホール、スーパー等がある。ホームのすぐ側に吉田川の堤防復旧工事が進められている。敷地に隣接して法人の診療所や老人保健施設があり連携がとれている。地域住民の支援があり災害時には救援に駆けつけている。入居者は自由に過ごし、職員は思いに寄り添う支援に努め、入居者と職員は家族のようなものである。目標達成計画の「入居者の望む生活を支援する」については、本人の思いを傾聴し、表情から汲み取ったことを介護記録に記載し、職員は毎月のミーティングで共有している。花を植えたり少人数でのドライブ等外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「けやき」)「ユニット名」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で意見を出し合い、取りまとめた形で理念・運営方針を作成し、実践している。それぞれを印刷し、玄関や食堂に掲示して、周知を図ると共に、折に触れて話し合い、見直しを図っている。	ホーム開設時に作成した理念や運営方針を継続している。年度末に全職員で話し合い「こころ・お互い様精神を忘れず」等の目標を立てた。入居者の思いに寄り添い、その人らしく自由に生活できるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大の時期以外は、感染対策を行ったうえで地域のスーパーへの買い物や外出をしている。運営推進会議は行政の通知に沿って開催を中止していたが、吉田川河川工事説明会へ出席させていただいた。	コロナ禍以前は地域の夏祭りや菊の展示会等に参加していた。今、地域の行事はすべて中止している。隣の老健の庭や近くの道路を歩いて、住宅の庭の花を眺めて来る。通りがかりに近所の人と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症対策にて外部との交流を制限させていただいており、今年度は取り組みを行っていないが、コロナが収束した際には、再開したいと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議は令和元年度の6回目より行政の通知に沿って開催を中止させていただいている。	町保険福祉課、区長、人権擁護委員、民生委員、家族などが出席し2カ月に1回会議を開催していた。昨年3月以降書面を郵送している。区長から吉田川工事の進捗状況や工事説明会の案内を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録や介護保険の申請の際などは書類を郵送せずに保険福祉課へ出向き、顔の見える関係性の構築に努めている。	町保険福祉課へ毎月出向き、運営推進会議の状況を報告して情報交換している。緊急に入居が必要な方や住所変更が必要な方などの相談をしている。町からマスクや消毒液などの支援物資が届いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことにより生じる様々な弊害を理解し、拘束をしないための代替案を考えながら実践している。例えば、玄関の鍵は日中は施錠せず、夜間のみ防犯の観点から施錠している。今年度も委員会と活動を実施している。	3カ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。入居者の言葉の深層理解やセンサーチャイム等を検討している。入居者が外出した時、「今はダメですよ」と言わず、「一緒に行ってみましょう」と行動している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待防止の研修を受け、職員にどのようなことが虐待にあたるかや虐待防止に対する考え方を伝えている。また、事業所内で「不適切ケア」についての研修を行っている。	年1回、法人の虐待研修マニュアルに基づき研修を行っている。毎年法人の虐待に関する職員アンケートがあり、事例により気づきを喚起している。管理者と職員との年2回の面談の際、心身の不安等相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、法人内の研修に参加した職員が伝達講習を行うかたちで周知している。日常生活においてはご本人の意思を尊重し、できる限り本人に決めていただけるよう権利擁護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間を取り、詳細について理解しやすいように説明することを心掛けている。ご本人やご家族の入居前の不安をできるだけ取り除けるよう説明し、納得の上で入居頂けるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者に寄り添つ関わりの中から、ご本人の想いが表現できる機会を設けている。ご家族については状態の変化を逐一報告し、コロナ禍の現在は面会を制限させて頂いているが、お電話にてご意向の確認をしている。	入居者から入浴や散歩時に聞いている。家族の声が聞きたい方には電話で対応した。居室にハンガー掛けが欲しい方に突っ張り棒を設置した。家族からは面会の希望が多いが電話や窓越し面会などで対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員との面談や月1回のミーティングを通じて職員の意見を伺い、運営に反映できるよう努めている。法人としても、仕事と職場のアンケートを年2回実施し、意見を反映している。	コロナ禍対策の一環として、職員の提案で手指の消毒を入居者と一緒に始めた。中庭に入居者の選んだ花を鉢に植えることを提案し、水やりや鑑賞を楽しんだ。法人が職員のストレス判定度を調査しフォローしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内には年間MVPという取り組みがあり、表彰するなど働きが形として認めやすい環境となっている。また、労働条件の変更時には都度丁寧に説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の育成プロジェクトに添って実践しているほか、年2回の目標管理(面談と評価)を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との合同研修(Zoomを使用したテレビ電話での研修)を行っている。	法人の会議で入居者本人の考えを尊重することを話し合った。職員が「入居者はそう思っているだろう」と考えていたが、伺うと違っていたことがあった。家族は「親はそう思っていたのか」など、新たな気づきがあった。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には安心してサービスを利用できるように、話し合いの時間に重点をおいている。また、入居後は環境の変化など重要な時期と考えており、関わりを多く持ち信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今後の相互理解に繋げるため、重要な時期であると考えている。特に入居後は生活の様子を電話でお伝えするなど、密に情報の共有を図り、できる限り不安が解消されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの相談時に、それぞれの意向の確認を行い、必要とされているサービスについて十分検討している。今年度は医療機関併設の施設をご案内させて頂いご相談者もおられた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人の得意なことと苦手なことを見極めながら、必要以上に介入しないように努めている。こうした関係の上で、これまでの生活が継続できるよう環境を整え、一緒に行うことを大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月けやき新聞を発行しており、日々の様子をお知らせしている。新型コロナウイルス感染症拡大においては、創刊号を作成し、おひとりおひとりの日々の様子をお伝えしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在、流行時期をみながら、馴染みの美容室を利用したりしているが、感染拡大時は交流が途切れないようお電話での近況報告などが主となっている。	コロナ禍で家族や親戚、友人等の面会は自粛している。馴染みの美容室が来訪したり、出向いたりしている。家族とは月1回の電話での近況報告や必要時に会話している。買い物は職員が代行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係性を尊重しながらも、必要時には職員が間に入るなどし、良好な関係性が築けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したとしても、「縁」は続くものと考えている。お看取りさせていただいた方についても、メモリアルコーナーを設置し、その方への想いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考え、日課は設けずご本人の生活ペースを大切にしている。自ら意向を言葉にして表現できない方については、ご家族からの情報や日々の関わりの中から見出すよう努めている。	家族から「昔から人の役に立つ人でした」ということを聞き、野菜作りの先生になってもらった。言葉で表現が困難な方の表情から、足の拘縮が分かり対応した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らしについては、ご家族にバックグラウンド用紙へ記入いただいている。また、日々の関わりの中から導きだせるように努め、内容についても把握し共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の重要性を理解し、些細な変化にも気付けるよう関わりを大切にしている。日常の中で気づき、得た情報は申し送りノートを活用し職員間の情報の共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意思を尊重しながら、ご家族の意向をお聞きし、様々な視点から課題に沿った対応ができるよう体制を整えている。年2回ご家族とカンファレンスを行い、意向の確認と同意を頂いている。	毎月担当職員を中心に全職員で評価し、6ヵ月毎に見直しをしている。足にふらつきが見られる方に、昔やっていた、花を植える活動を計画書に盛り込み、外に出る機会を増やし怪我をしないようサポートしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言葉や表現などをそのまま記録することで、ありのままの生活がわかるように努めている。また、情報の共有を行い介護計画につながるように配慮している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化が見られる際は、併設の診療所と介護老人保健施設の看護師の協力をいただき、可能な限りの医療的処置が行える条件下である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人には、大和町にてこれまでと変わらない生活が送れるよう、地域資源の情報を努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所の医師がかかりつけ医となっており、連携が図りやすい環境である。必要時には、専門医を受診することで適切な医療が受けられるようにしている。	ホーム隣の、法人の診療所を入居者全員がかかりつけ医としている。月2回の訪問診療があり24時間オンコールで夜間や緊急時の受診や指示が受けられる。法人の看護師が毎日来て相談や指導にあたっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所と介護老人保健施設の看護師と連携を図っている。介護職員は状態の変化を報告し医学的な視点での助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今期は2名の方が入院され、状態の変化については医療機関の医師や看護師から随時報告をいただき、ご家族と治療の方針や退院後について話し合う機会を多く持ち医療機関との連携に努めた。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に対する指針についても説明し、了承を得ている。実際に終末期を迎えられる際には、改めて関わり方について話し合いの場を設け、最期までその人らしく過ごしていただけるよう配慮している。	入居時に「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。本人や家族の希望を確認し、昨年2名の看取りを行った。医師や看護師との看取りチームを設置し医療の連携を図り、昔を回想する様な話などで支援を続けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の介護老人保健施設と合同にて、定期的に研修会を行っている。今期は新型コロナウイルス感染拡大時期と重なり、急変時の対応マニュアルに基づき急変時の対応を再確認している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。非常食や備蓄品の準備を行い災害時に備えている。火災発生時には併設している介護老人保健施設職員が駆けつける体制となっている。	年2回夜間想定避難訓練を行っている。隣接の老健から4名の職員が参加した。消防職員から災害時は感染予防より避難を優先してとの助言があった。地域住民から災害時は支援しますとの申し出がある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重すべき目上の方であるという認識のもと、生活歴や性格を考慮し、おひとりおひとりへの対応を心掛けている。排泄・入浴の際についても、さりげなく促すことでプライバシーに配慮している。	入居者を人生の先輩と尊敬している。男性は苗字に女性の名前は名前にさん付けで呼んでいる。汚れた衣類の着替えに「息子さんが買ったものに変えましょうか」など、他人の前で恥ずかしい思いをさせないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思表示しやすい環境を作るように配慮している。言葉にして表現できない方に対しては、表情などから意向をくみ取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の過ごしたい時間を大切にしたいと考え、日課は設けずご本人の生活ペースを保つよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や交換時にはご本人と一緒に衣服を選ぶようにし、その人らしい身だしなみができるよう配慮している。また、一緒に衣服を買いに行ったり、馴染みの美容室に出向くなどの支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を作成したり、好みを伺うようにしている。準備についても、食材を切ったり味付けをしていただくなど、ご本人の能力に応じて参加しやすい環境となるよう配慮し、食事そのものを楽しむ支援をしている。	職員が入居者の希望を聞き1週間分の献立を作っている。肉やうどん等の希望が多い。管理栄養士からビタミンCを加えるよう指導があり、フルーツを多くした。家族から瀬戸物の食器を頂き、食事に彩を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの身体状況や嗜好に合わせて行っている。食が細くなっている方に対しては、栄養補助食品の提供も行っている。また、定期的に併設の介護老人保健施設の管理栄養士に助言をいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で行える方についても、お声掛けし習慣となるよう取り組んでいる。口腔内の状態に応じて、かかりつけの歯科を受診したり、往診歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用にて、個人の排泄パターンの把握に努めている。介助が必要な方に対しては、全てを介助するのではなく、苦手な部分のみをお手伝いするようにしている。	寝たきりの方には午前と午後の定時に声がけし、トイレに誘導している。下剤を用いて便が緩い方に、布パンツの下に簡単装着パッドを付けている。夜間帯はセンサーマットのメロディで入居者を確認し誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に牛乳等の乳製品を提供したり、午前中に適度な体操を取り入れるなど工夫している。便秘の改善が必要な方は、注意して観察し、内服薬での対応も併用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴方法や時間については、身体状態に影響のないよう配慮しながら、なるべくそれぞれの習慣や希望に添えるようにしている。同性介助にも対応できるよう配慮している。	2日に1回の入浴を声がけしている。毎日入る方や夜7時過ぎに入る方もいる。希望により森やゆず、バラの香りの入浴剤を使っている。脱衣所に演歌歌手きよしやサンドウィッチマンのポスターを貼り喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間は、それぞれの希望や身体状態に合わせて配慮している。就寝環境についても、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の内服薬の作用と副作用が記載されている説明書を閲覧できるようにしており、誤薬予防マニュアルを作成し周知している。内服変更時には、申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの想いを尊重し、畑仕事や家事仕事などその人の得意とする活動が継続して行えるよう支援している。楽しみの支援については、出来る限り職員も一緒に楽しむことを大切にしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	それぞれご本人の想いを尊重し、希望に添えるように取り組んでいる。今期は新型コロナウイルス感染対策をし、近所のスーパーや公園へ外出しながら、近所の方と交流する機会を持てるよう支援している。	コロナ禍以後は入居者全員での行楽等は出来なくなったが、少人数で近くの南川ダムや八幡神社、町内へドライブしている。「町も変わったね」等と入居者が言っている。道路沿いやまほろばホール等へ散歩している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が原則であるが、特にお金を持つことへの制限はしていない。希望があれば職員が金庫にてお預かりし、必要時に職員と一緒に買い物をして出納帳へ記載し管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは、お年賀のみ継続されているかたがおり、年賀状の準備を行い継続してやり取りが行えるよう支援している。電話は自由に使用できる環境となっている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設えについては季節感に配慮した装飾を、ご入居者の皆様と一緒にやっている。室温や湿度については適宜確認しながら行っている。	ホームに中庭があり、天窗から光が差し込む。桜の造花を飾り季節感を出している。職員とカルタやけん玉を楽しんだり、ソファに掛けてタブレットで歌謡曲を聞く方や美空ひばりのビデオを見るなど自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人が自分の居場所を作っており、その空間を大切にしている。また、関係性を築くことが苦手な方については職員が介入することで孤独を感じることがないように配慮している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、ご家族に馴染みのある物があることの重要性を説明し、持ち込みに協力していただいている。また、その方の趣味に合ったお部屋となるよう飾り物にも配慮し、居心地のよい環境となるよう努めている。	居室にエアコンや洗面台、ベッドが備えてある。使い慣れたタンスや友達の描いた絵、家族の写真を飾り自分らしい部屋にしている。テレビを見たり、読書を楽しむ、日記を書く方など思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の力を活用できるよう見極め、必要に応じた個別支援に努めている。転倒リスクの高い方のお部屋には、つかまり立ちしやすいよう手すりを設置したり、センサーを活用し迅速に対応できるよう努めている。		